

週刊 タバコの正体

先日、今年のノーベル賞が発表されました。人類に多大な貢献をした人に授与される世界的に権威ある賞で、現在までに何人も日本人が受賞されていますが、今年も「医学・生理学賞」と「物理学賞」の部門でそれぞれ受賞されました。日本人として非常に誇らしい思いがします。

「医学・生理学賞」に輝いた大村智さんが発見し研究を重ね開発された治療薬「イベルメクチン」は、世界で年間3億人もの人を失明の危機から救っているそうです。熱帯地域の風土病「オンコセルカ症（河川盲目症）」と言われる病気の特効薬として延べ10億人以上に無償配布されていて、WHO（世界保健機関）によると、10年以内にこの病気が撲滅できる見通しだという事です。

大村さんは全国各地の土中から採取した年間2500種類もの微生物を分離分析することを繰り返し、何億人もの健康に貢献する特効薬をつくる事に成功しました。この業績は、まさに「ノーベル賞」に値すると思います。

さて、^{ひるがえ}翻ってタバコに目を転じてみましょう。下の表を見てください。毎年、世界では喫煙によって540万人もの人が亡くなっています。さらに他人のタバコによる受動喫煙でも60万人が死亡しているので、あわせて600万人がタバコに命を奪われている状況です。

	喫煙による年間死者数	受動喫煙による年間死者数	出典
世界	540万人	60万人	WHO 世界のたばこの流行に関する報告書2011年版
日本	12-13万人 ※1~3 年間死者数119万人(H22)の約1割	6,800人 ※4 肺がん、虚血性心疾患のみ計上	※1. Katanoda K, et al. 2008, ※2. Murakami Y, et al. 2011 ※3. Ikeda N, et al. 2011, ※4. 片野田ら、2010

厚生労働省生活習慣対策室「たばこアルコール担当者講習会」資料から

日本においても、年間13万人が亡くなっていると言われています。亡くなった人たちの死因は、「肺がん」や「心筋梗塞」、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」などの病気なのですが、タバコを吸っていなければそんな病気にならなかったはずの人たちが、世界で年間600万人もいるのです。

ノーベル賞が人類に多大な貢献をした事を称える一方で、人々の健康や命を奪うタバコが世界中で販売され続けているのは、とても奇妙で不合理に思えますが、こうした現象は多様化した人類の現実なのでしょう。

しかし、ノーベル賞を受賞された方々が、それまでの歴史で作り出せなかった信じられないモノや考え方を発見し実現してきた事を思うと、人類からタバコをなくす事は決して不可能ではないと思われま

産業デザイン科 奥田 恭久